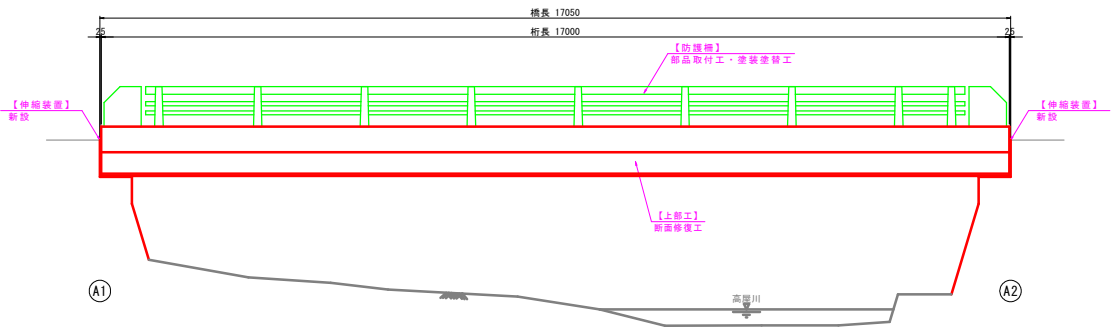
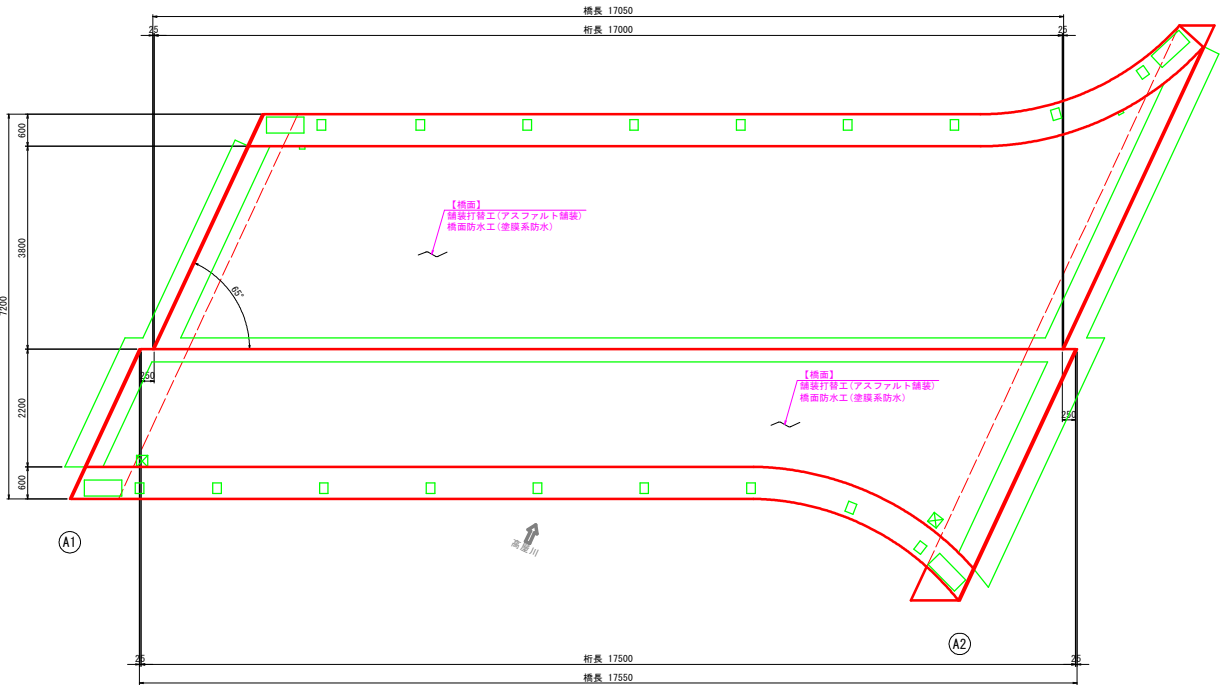


上川原橋2 補修工一般図

側面図 S=1:50



平面図 S=1:50

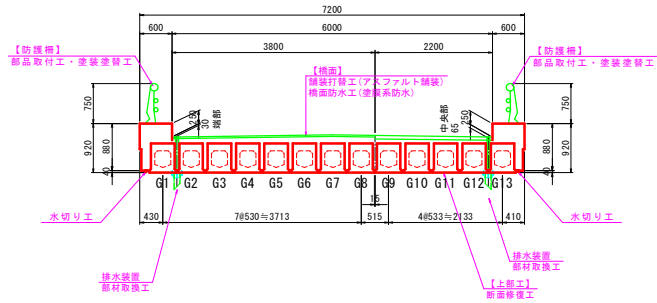


補修概要一覧表

部 位	工法概要	備考 ・ 材料
舗 装	舗装打替え工 橋面防水工	アスファルト舗装 遮膜系防水
伸縮部	伸縮装置設置工	鋼製・荷重支持型 (伸縮量25mm)
防護欄	部材取付工・塗装塗替工	Rc-直塗装系
排水施設	部材取替工	排水管 (VP100A)
上層工	新面修復工	ポリマーセメントモルタル
地覆、床版、主桁	水切り工	軟質PVC型

【適用基準等】  
・道路橋示方書・同解説(平成24年3月)  
・コンクリートのひび割れ調査・補修・補強指針-2013-

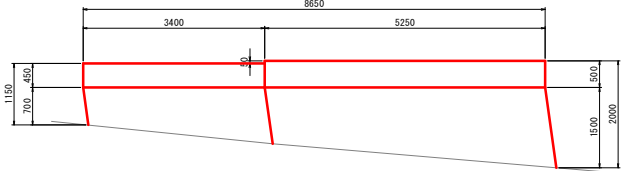
断面図 S=1:50



下部工図 S=1:50

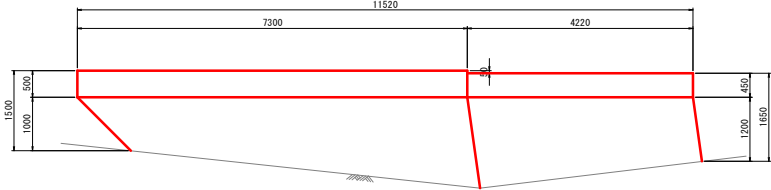
A 1 橋台

正面図



A 2 橋台

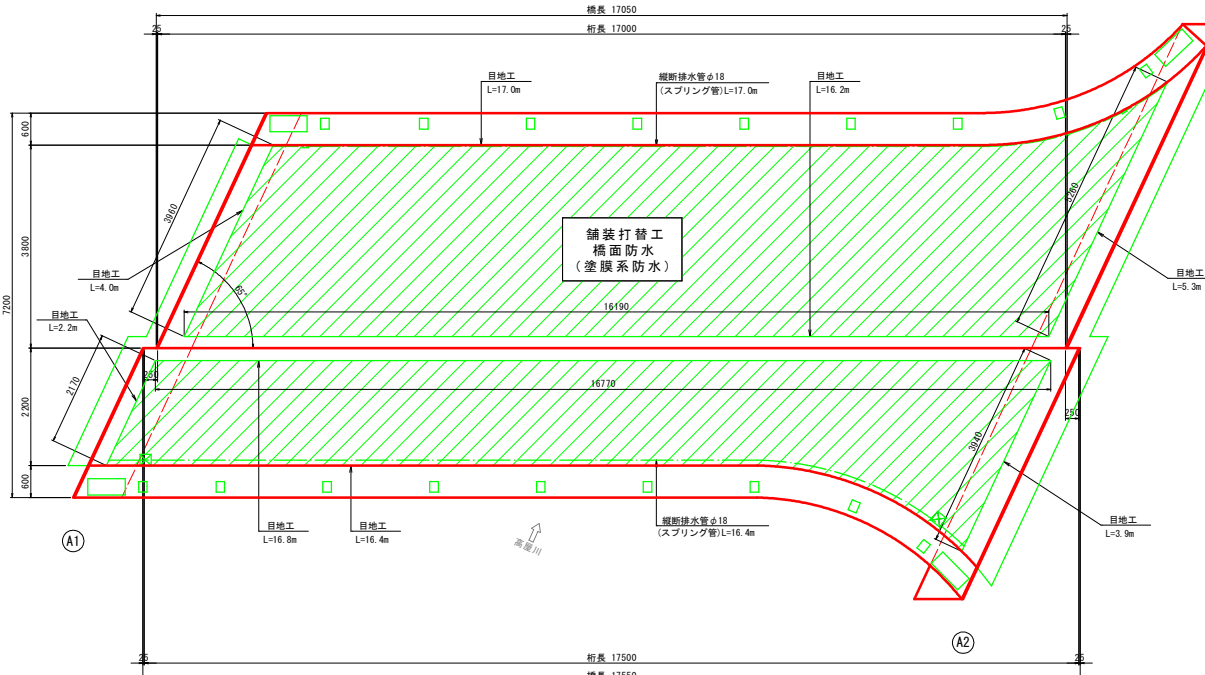
正面図



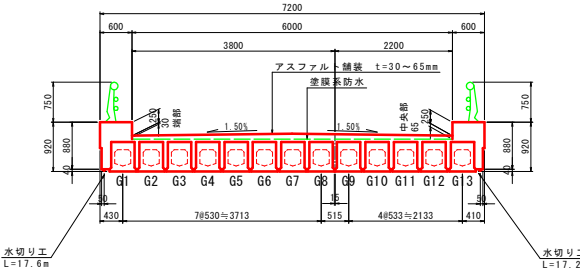
工事名	上川原橋2橋梁補修工事
図面名	上川原橋2 補修工一般図
作成年月日	令和4年2月28日
縮尺	図示 図面番号 1 / 7
会社名	
事業名	みやこ町 都市整備課

## 上川原橋2 橋面工 (1)

平面图 S=1:5



断面图 S=1:5



橋面數量

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面舗装	アスファルト舗装	n <sup>2</sup>	94.4	
防 水 層	変換系防水層	n <sup>2</sup>	94.4	
縦断排水管	スプリング管φ18	n	33.4	防断蓋取メッキ 標準品以上
成型型目材		n	101.3	セロシール31シート 標準品以上
端部処理		n	101.3	シムボード・フレッシュ 標準品以上

注：施工前に現況状況及び寸法等を実測し、図面照合の確認を行うこと。

水切り工詳細図 S=1 :  
(軟質PVC)



・ 接着面は清掃し、油分、ごみ等を取り除いた面とすること。

・ 水切り本体の凹（切込み部）側に接着材を適量（2mm程度）塗り、本体を押付けるように施工する。

・ 水切り本体の水平先端部がコンクリートと接するようにして施工すること。

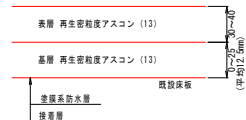
注 記

1. 本図は道路台帳、簡易測量を基に作成しているため、工事着手時に形状寸法を測定し、構造図の補正を、こなつた後に作業を実施すること。

上流側	17.2 m
下流側	17.6 m
合 計	34.8 m

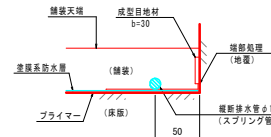
工事名	上川原橋2橋梁補修工事		
図面名	上川原橋2 橋面工 (1)		
作成年月日	令和 4 年 2 月 28 日		
縮尺	図示	図面番号	2 / 7
会社名			
事業者名	みやこ町 都市整備課		

舗装構成図 S=1:3

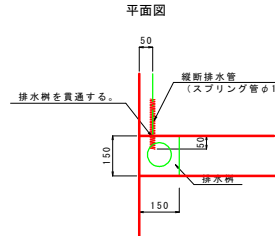


※( ) は、最大骨材径を示す。  
※舗装については、現地高に合わせて調整する。

縦断排水、端部防水詳細図 S=1:

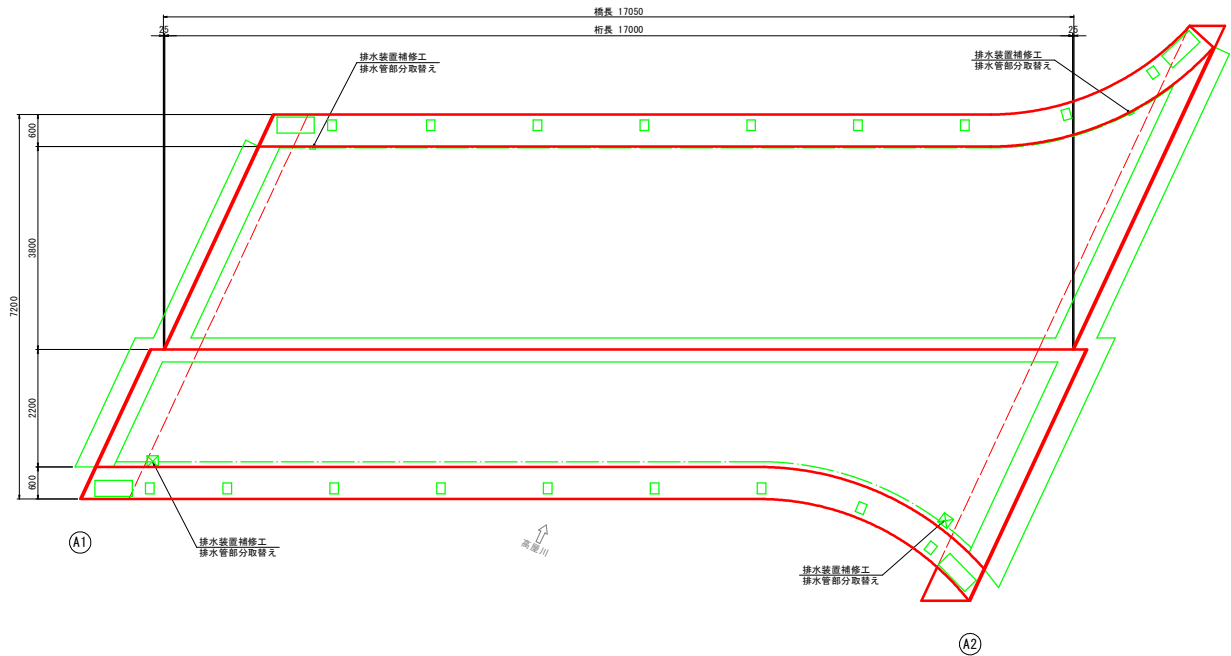


縦断排水管取付詳細図 S=1:1

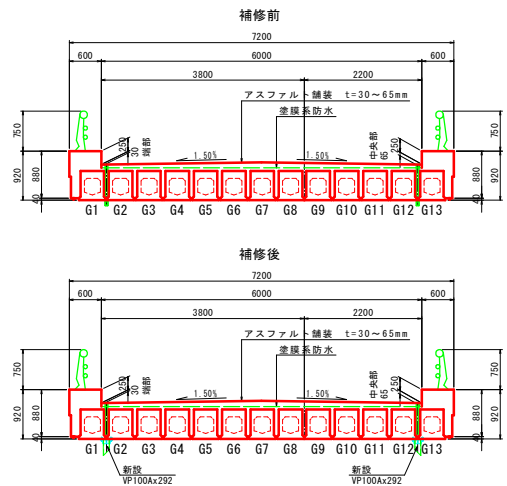


上川原橋2 橋面工 (2)

平面図 S=1:50



断面図 S=1:50

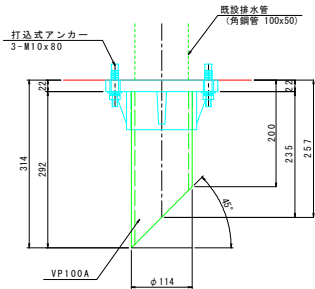


既設排水管形状



排水装置補修工詳細図 S=1:5

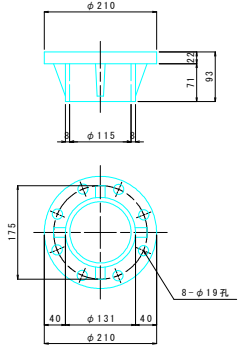
製作数: 4



排水装置補修工 数量表

名称・規格	単位	数量	合計
TSフランジ (φ100用)	個	4	4
排水管 (VP100A)	m	4×0.292=1.168	1.2
打込み式アンカー M10×80 (亜鉛メッキ)	本	12	12

TSフランジ詳細図 S=1:5

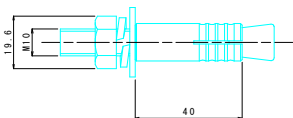


※床版への固定は1箇所につき3本のアンカーボルトを使用する。

打込み式アンカー詳細 S=1:1

M10×80

製作数: 12



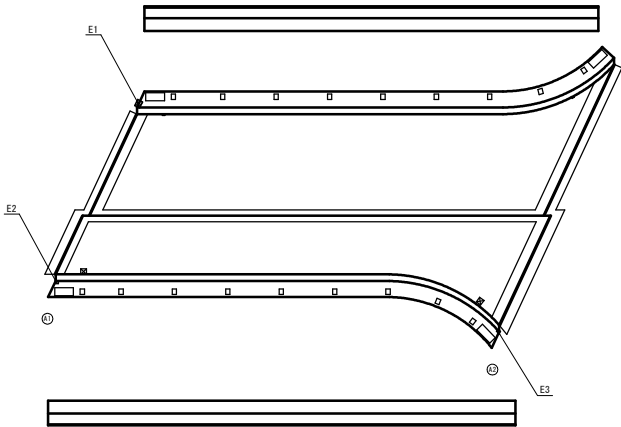
- 注記)
1. 本図は道路台帳、簡易測量を基に作成しているため、工事着手時に形状寸法を要測し、横道線の補正をおこなった後に作業を実施すること。
  2. 打込みアンカーを施工する場合、鉄筋検査を行いアンカー位置を決定すること。

工事名	上川原橋2橋梁補修工事		
図面名	上川原橋2 橋面工 (2)		
作成年月日	令和4年2月28日		
縮尺	図示	図面番号	3 / 7
会社名			
事業者名	みやこ町 都市整備課		

上川原橋2 補修図

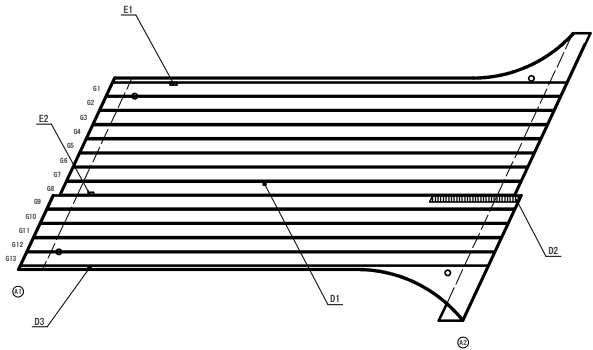
損傷記号		
補修の種類		表示
ひびわれ (0.2mm～1.0mm未満)		T
ひびわれ (1.0mm以上)		J
断面修復 (防錆処理有り)		D
断面修復 (防錆処理無し)		E

橋面 S=1:100



断面修復工数量表		※鉄筋防錆処理不要 (断面修復深さ=30mm)				
補修箇所	番 号	損傷数量			合計 (㎡)	
		範囲 (mm)		箇所		
地覆	E1	200	×	250	×	1
地覆	E2	100	×	100	×	1
地覆	E3	100	×	100	×	1
小 計						0.070

桁下面 S=1:100

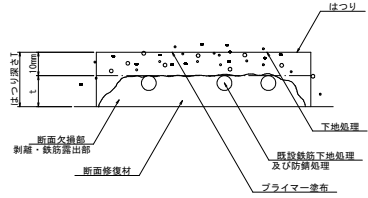


桁下面 断面修復工数量表		※鉄筋防錆処理必要 (断面修復深さ=鉄筋純被り+鉄筋径+余裕=25(30)+16+10≒60mm)				
補修箇所	番 号	損傷数量			合計 (㎡)	
		範囲 (mm)		箇所		
主桁	D1	100	×	100	×	1
主桁	D2	3300	×	250	×	1
地覆	D3	100	×	100	×	1
小 計						0.845

桁下面 断面修復工数量表		※鉄筋防錆処理不要 (断面修復深さ=30mm)				
補修箇所	番 号	損傷数量			合計 (㎡)	
		範囲 (mm)		箇所		
主桁	E1	250	×	100	×	1
主桁	E2	200	×	100	×	1
小 計						0.045

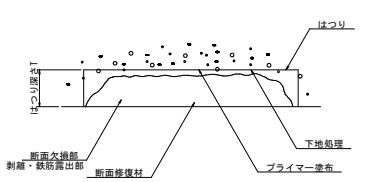
断面修復工法

防錆処理が必要な場合

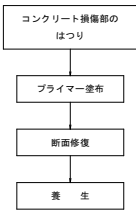
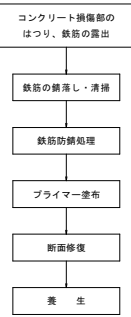


※上図 t はかぶり厚 (現地結果) とする。(T = かぶり + 10mm)  
ただし、かぶりが不明な場合は T = 60mm とする。

防錆処理が不要な場合



※はつり深さ T は 30mm とする。



※ 注

- 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切断面地を入れ、入念に施工する。(はつり深さは 6cm を想定している。)

2. 使用材料

断面修復材

ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

施工方法		左官		吹付け		売でん
硬化性		普通	速硬	普通	普通	
質量性		普通	普通	普通	普通	
単位容積質量 (kg/l)		1.8～2.2	1.3～1.6	1.8～2.1	1.5～2.2	2.1～2.2
フロー		120～160	110～150	120～160	140～250	～300
硬化時間 (h)		3～8	3～10	0.5～2	3～8	4～15
圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	材料 3h	—	—	3～15	—	—
	材料 1d	5～25	3～25	10～30	5～15	5～10
	材料 7d	20～40	5～30	20～40	20～40	15～40
	材料 28d	25～60	10～35	25～40	30～60	25～50
付着強度 (N/mm <sup>2</sup> )	標準	1.8～3.4	1.8～2.6	2.0～2.8	2.0～3.5	2.0～2.3
	温冷繰返し	—	—	—	—	—
弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )		16～21	12～15	13～21	14～21	17～21
引張強度 (N/mm <sup>2</sup> )		3～6	200～1000	—	—	—
収縮率 (×10 <sup>-6</sup> )		8～17	9～13	10～15	9～17	—
熱膨張率 (×10 <sup>-6</sup> /℃)		—	—	—	—	—

抜粋：「表面保護工法 設計施工指針(案)：土木学会」

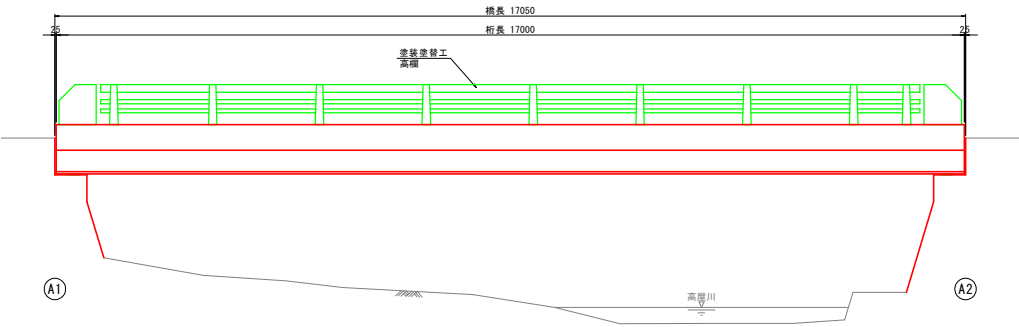
注記)

- 既設構造物寸法・形状は、工事に先立ち再計測再確認を必ず実施し、工事に反映すること。
- ひびわれ補修工、断面修復工の範囲は、「即住点検データ」「現地調査」等に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
- 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。

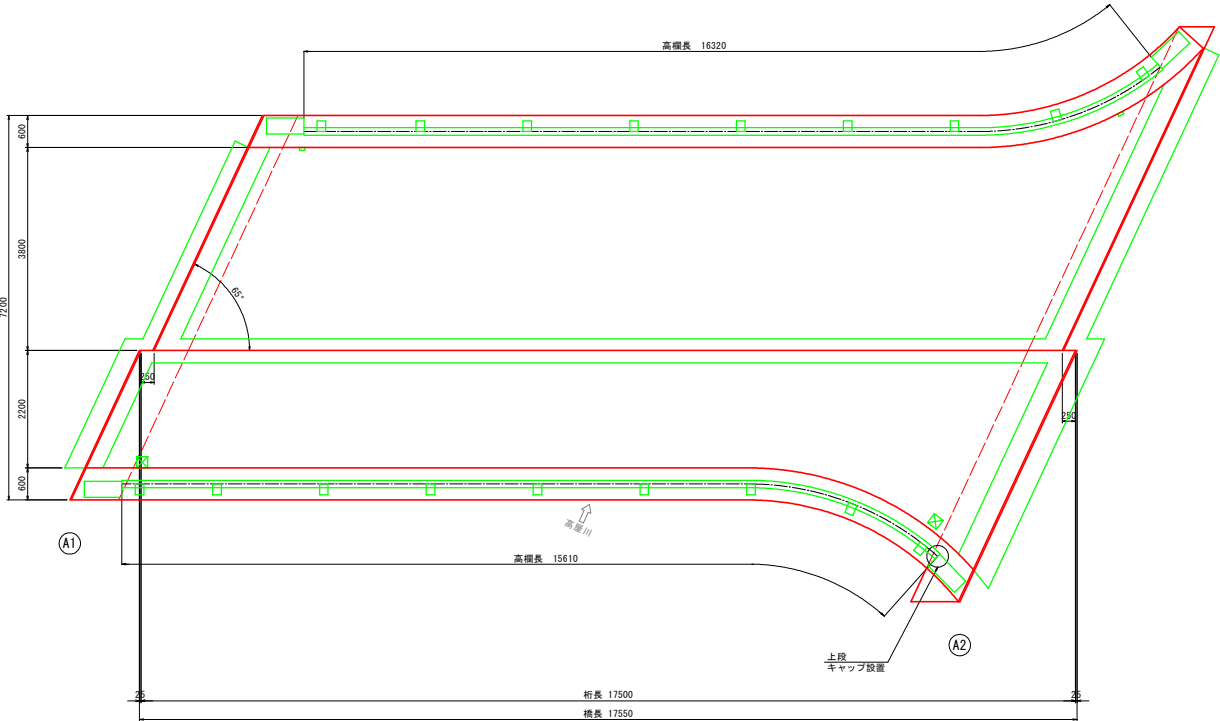
工事名	上川原橋2機梁補修工事		
図面名	上川原橋2 補修図		
作成年月日	令和 4 年 2 月 28 日		
縮尺	図示	図面番号	4 / 7
会社名			
事業者名	みやこ町 都市整備課		

上川原橋2 防護柵工

側面図 S=1:50



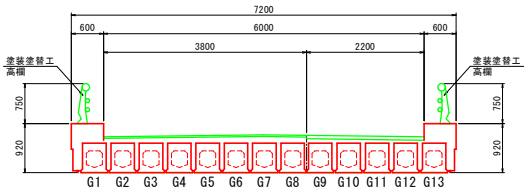
平面図 S=1:50



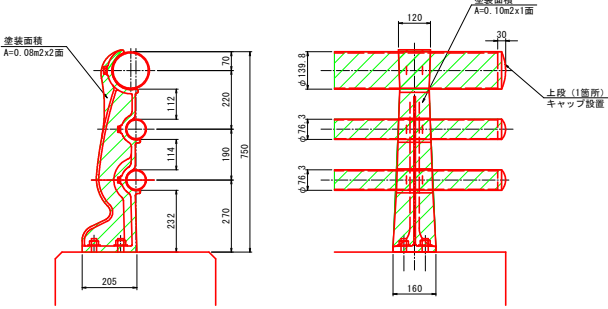
材料表

名 称	寸 法	材 質	単 重	数 量	重 量
キャップ	φ139.8x30	SS400	1.30	1.0 個	1.3 kg

断面図 S=1:50



塗装範囲 S=1:10



Rc-Ⅲ塗装系 (はけ・ローラー)

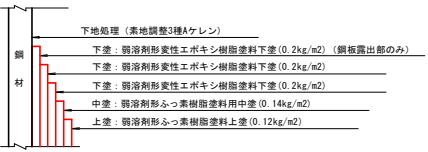
塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	200	1日～10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日～10日

塗装塗替工 (Rc-Ⅲ)

腐食、防食機能の劣化		
名 称	図 示 (縦mm×横mm)	面 積 (m <sup>2</sup> )
防護柵	—	30.22

※面積の詳細は数量計算書にて計上

Rc-Ⅲ塗装系



※ 施工手順

- 下地処理：素地調整3種A
- 下塗り：(1) 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (0.2kg/m<sup>2</sup>) (鋼板露出部のみ)  
(2) 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (0.2kg/m<sup>2</sup>)  
(3) 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (0.2kg/m<sup>2</sup>)
- 中塗り：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 (0.14kg/m<sup>2</sup>)
- 上塗り：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用上塗 (0.12kg/m<sup>2</sup>)
- 施工完了：養生

注記

- 施工前には必ず現況寸法を再計し、施工寸法を確認すること。
- 塗装仕様は「鋼道路橋防食便覧H26.3(日本道路協会)」に準拠すること。
- 塗装塗替時は、塗替が失敗しないよう防護を行うこと。
- 塗り重ねは、前塗膜が十分に乾燥した後行うこと。

工事名	上川原橋2 橋梁補修工事
図面名	上川原橋2 防護柵工
作成年月日	令和 4 年 2 月 28 日
縮尺	図示 図面番号 5 / 7
会社名	
事業名	みやこ町 都市整備課

A1, A2, 縦目地(車道部)

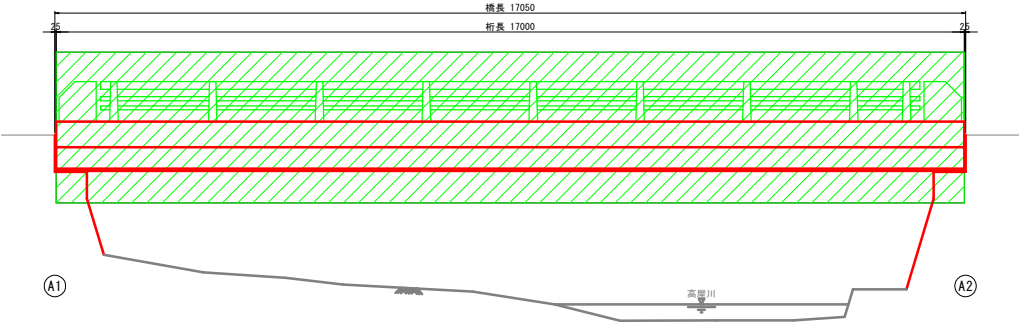
品名	仕様・規格	単位	合計	備考
伸縮装置	ZKRU25 (性能・材料等) 同等以上	m	34.8	鋼製・荷重支持型 (伸縮量25mm)
窓枠 (取付ウレタンフォーム)	伸縮装置用	m	34.8	
シール材 (地盤部用)	地盤部	m	2.0	断面寸法は数量計算表を参照のこと
シール材 (地盤部用) 両プライマー		l	1.0	
補注鉄筋	S1035 D145	kg	138.6	標準使用量200g/m
補注アンカー	S1016	本	762	0.995kg/本
埋込タンクシート	1250 $\times$ 2500mm $\times$ 2以上	㎡	2.0	

※ 施工にあたっては、現場再測の上行うこと。その上で割付寸法の変更が必要となる場合は、発注者と協議を行い決定する。  
表層材は無収縮モルタル硬化後に施工を行うこと。  
伸縮装置本体の連結は、伸縮装置の施工手順書を参照すること。

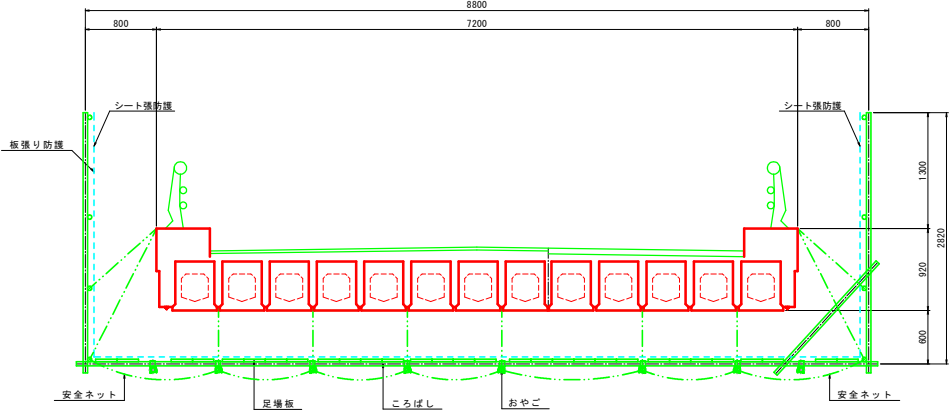
工事名	上川原橋2橋梁補修工事		
図面名	上川原橋2 伸縮装置取替工		
作成年月日	令和 4年 2月 28日		
縮尺	図示	図面番号	6 / 7
会社名			
事業者名	みやこ町 都市整備課		

上川原橋2 仮設工（参考図）

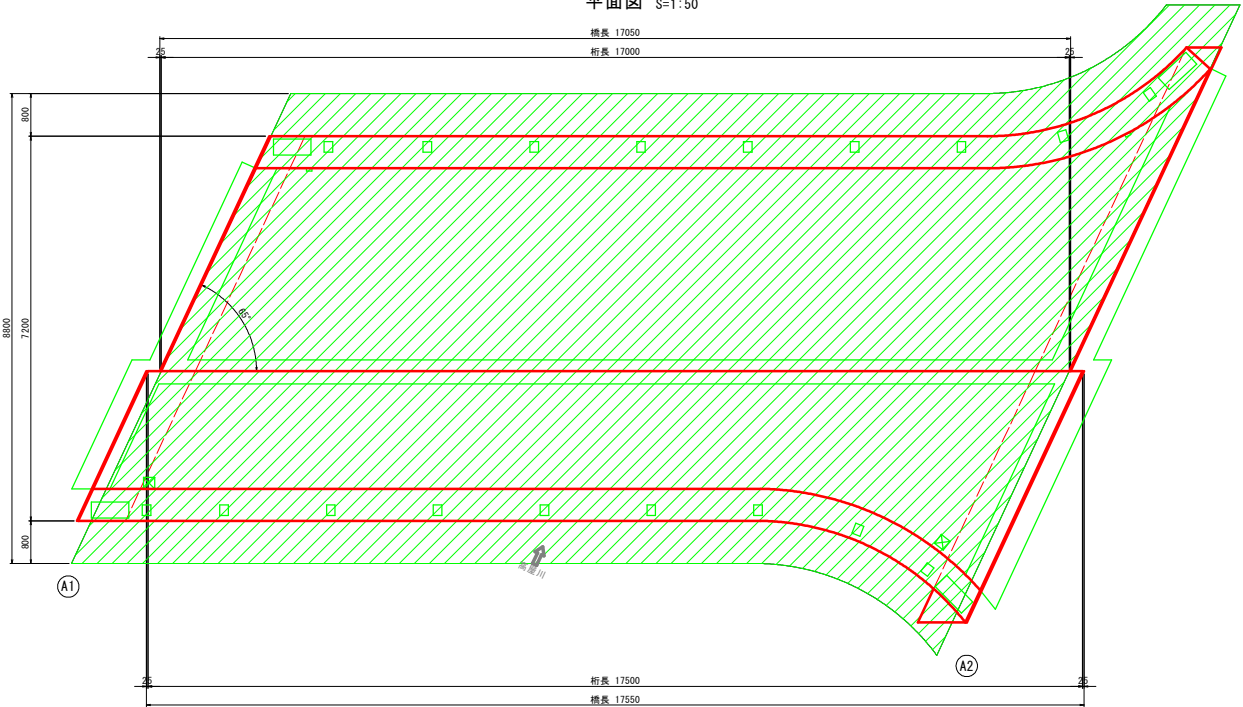
側面図 S=1:50



断面図 S=1:30



平面図 S=1:50



足場工数量 TYPE A1+B

細目	細目	計算式	単位	数量	備考
足場工	吊足場	CADより	m <sup>2</sup>	155.4	
	シート張防護工	CADより	m <sup>2</sup>	155.4	

※ 設計において仮設方法は、発注者との協議により最善足場で計画している。  
※ 詳細は安全性・施工性を考慮して発注者や水路管理者との協議により決定すること。  
※ 現地計測の上、施工を行うこと。

注記)  
1. 既設構造物寸法・形状は工事に先立ち再計測  
再確認を必ず実施し、工事に反映すること。  
2. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された  
場合、監督員と協議の上同様に対策を実施すること。

工事名	上川原橋2 橋梁補修工事		
図面名	上川原橋2 仮設工（参考図）		
作成年月日	令和4年2月28日		
縮尺	図示	図面番号	7 / 7
会社名			
事業者名	みやこ町 都市整備課		